

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回高崎学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年6月3日（月）開会 14:30 閉会 16:00		
開催場所		つくば市立高崎中学校図書室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	渡辺峰子、石川 隆、田中雄輝、市原裕一郎 勝又みゆき、猪瀬奈保美、長谷川清恵 岡田克司、岡田良一 高崎中学校 校長 井橋憲一 教頭 木村文彦 教務主任 古國芳彦 荃崎第一小学校 校長 小澤光幸 教頭 三橋伸孝 教務主任 千葉直樹		
	その他			
	事務局	教育局次長：久保田靖彦 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	1 人
非公開の場合はその理由				
議題		1 学校運営の基本方針について 2 各学校の教育活動の紹介 3 熟議「地域とともに高崎学園が育てたい児童生徒の姿について」 4 その他		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会	1 開会			

議 次 第	2	選任通知書交付
	3	教育長挨拶
	4	説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて
	5	座長・副座長の選出
	6	協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 学校の教育活動の紹介 (3) 熟議「地域とともに高崎学園が育てたい児童生徒の姿について」 (4) その他
	7	閉会

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 高崎学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。

はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として高崎中学校古國芳彦先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。

2 選任通知書交付、

事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。なお、教育長の森田は本日、欠席となります。代わりまして教育局次長久保田靖彦が選任通知書の交付を行わせていただきます。

（「選任通知書」を石川委員に交付）

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

高崎学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として長谷川清恵委員が高崎学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきます。

（「委嘱状」を長谷川委員に交付）

ありがとうございました。お席にお戻りください。

この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください

3 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育局次長久保田が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

本日はお忙しい中、第1回高崎学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

高崎学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします
配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位

の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

高崎学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議といって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会といって、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょうか？

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協

議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、高崎学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていきますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときは、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずです。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべ

きか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること

②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること

③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること

④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ

⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしくお願いいたします。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。

*質問なし

5 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、手代木中学校で校長先生として尽力されてきた岡田克司委員に座長を、副座長は、高崎中学校で校長先生として尽力されてきた岡田良一委員に願

いしたいと思いますがいかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

岡田克司座長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校より御説明をお願いします。

高崎学園長(井橋校長)：高崎学園・高崎中学校グランドデザインの説明

①高崎学園のグランドデザインの説明

令和6年度の高崎学園目標「ともに学び、心豊かに新時代をたくましく生きる社会力をもった子どもの育成」としました。ここ高崎学園は一小一中であり、小学校1年生から中学校9年生まで同じ地域で育つ児童生徒がほとんどです。

そのような環境にある子どもたちにとって、ともに学び合うことは大切です。

そして、ともに学び合う関係づくりには心が豊かであることも必要です。また、いつの時代においても、くじけたり躓いたり子どもたちには様々な困難な場面が訪れることが予想されます。そのような時にたくましく生き抜いていく力を育成することが不可欠です。子どもたちはこれから予測困難で変化が激しい新しい時代を生きていくのですから、その新時代を見据え、ともに学び、心豊かに新時代をたくましく生きる社会力をもった子どもを育てたいと思いこのような学園目標を設定しました。児童生徒像としましては、「自ら学習に取り組める児童生徒」、「思いやりと協調性のある児童生徒」、「心身ともにたくましく生きる児童生徒」を目指す児童生徒像として掲げています。

続きまして関連するところも多いものですから、中学校のグランドデザインの説明とともに御説明させていただきます。つくば市立高崎中学校のグランドデザインを御覧ください。先ほど申し上げました学園目標を受け、高崎中学校の学校教育目標を、「自学・自律の心を育て、社会に貢献できる生徒の育成」としました。私の学校経営方針は、「学校は生徒が主役」、「教師は授業で勝負」です。御承知のように、生徒が学校で過ごす時間のほとんどが授業です。その授業を核とした学校教育活動全体を通して、生徒一人一人が幸せを実感できる学校にしたいと思っています。そこで、今年度の組織目標を「授業を通して関わり合い、学び合う学習集団を育てる」と「互いのよさを認め合い、高め合う集団をつくる」の二つとし、「確かな学力の育成」、「心の教育の充実」、「健康・安全・防災教育の充実」、「信頼される学校づくり」の4つの柱にそった学校教育活動を重点に置いて9年間を見通した学力補償と安心・安全・信頼される学校づくりに努めてまいります。

②荃崎第一小学校（小澤校長）：荃崎第一小学校グランドデザインの説明

私の経営方針は、「笑顔あふれる荃崎第一小学校」という学校をつくっていきたいと思い4月に職員に話をしてきました。職員一人ひとりが個人の目標各担任としての目標等を設定するにあたっての単年度の組織目標としまして、「自ら考え、伝え合う子を育み、高め合う授業づくり」、「自他のよさを認め合い笑顔あふれる学級・学年づくり」としました。学園のグランドデザインとのリンクを合わせて考えたときに一番とらえやすいのは、「授業づくり」と「学級づくり」となるだろうということで、「授業づくり」と「学級学年づくり」を大きな柱での組織目標とさせていただきました。では、どのような授業なのかというと、自ら考え、伝え合う子を育む。そして、それが高め合うような形の授業展開。それを、全学年、全学級全体でという話をしました。学級・学年づくりはというと、自他のよさを認め合い笑顔あふれるということを考えてくださいということです。日本の子どもたちは自己肯定感が低いと言われて久しいです。そういうこともありまして、それぞれのよさを認め合い、友達のよさだけでなく、自分のよさも分かるような形の学級学年経営をお願いしますということです。では、どのように進めていくかということですけれど、授業においても、自己肯定感の向上ということについても我々教職員が、意図的に場の設定をする

ということです。第一小学校としましては、中学校へ行くためのそして学園のグランドデザインにあるとおり、この椎の木のようにしっかりと足元を固め大きく伸びていく、「ともに学び、心豊かに新時代をたくましく生きる社会力をもった子どもの育成」の本当に第一段階、基礎というところに重きを置いて6年間がんばりたいと思います。そして、次の3年間の中学校につなごうということによってやっております。

岡田座長：お二人の校長先生、ありがとうございました。この後、教務主任の先生方に、学校や児童生徒の様子、特色ある教育活動や地域と共同・連携した教育活動等についてご説明をお願いいたします。

(2) 学校の教育活動の紹介

① 荃崎第一小学校(千葉教務主任)：高崎学園としての取組みの説明

私より学園としての取組みの部分として簡単ではありますが、御説明させていただきます。年度当初の学園研修ということで、「自ら考え、伝え合い、表現できる児童生徒の育成」について、今年度も職員での研修をスタートしてまいります。大きな研究主題に対し、それぞれの目指す児童生徒像を1年生から4年生、5年生から7年生、8・9年生という3つのブロックごとに設定をしましてその達成のために授業の研究、改革に取り組んでいます。特に昨年度につきましては、令和4年度、令和5年度につくば市の研究指定を受けたこともありまして、子どもたちの学力向上に向けて、特に小・中学校で、今ほどの研究主題を意識しながら取り組んできたところであります。これがその時の様子であります(大型モニターで写真を提示)。次に具体的な教職員間の交流について御説明させていただきます。モニターを御覧ください。こちらにつきましても昨年度になりますが、学園研修の中で教育委員会の指導主事の先生方をお招きしまして、要請訪問というものを行いました。具体的には、小学校の教諭また中学校の教諭の方で先程の研究主題を実現するために、子どもたちの学びの場をしっかりと準備したなかで子どもたちの活動として、しっかりと学びの場をつくりながら、いかにして学力の定着を図るかということで行ってまいりました。こちらがその要請訪問の中で、職員の中で同じように交流しながら学力向上に向けてのそれぞれの授業について、意見を交換している場面になります(大型モニターで写真を提示)。こちらも同じように、それぞれの部会ごとに分かれまして、先生方の中で意見交流をしている様子であります(大型モニターで写真を提示)。また、8月には同じように学園研修として小学校中学校の先生方が集まって、いろいろな意見交換を行っています。この時は、スクールカウンセラーの先生によるアンガーマネジメント研修を実施しました。今年度もまだ大きなテーマ等については未定であります。8月に学園研修を実施する予定です。こちらが昨年11月に研究発表会を行った時の様子になります。荃崎第一小学校の方に中学生も、中学校の先生方も集まっていたいて小学校の方で公開授業を実施しました(大型モニターで写真を提示)。子どもたちの活動の様子の一部となります。続きまして学園若手研修となります。こちらにつき

ましては、学園内の初任の先生から3年までの先生方が集まって、授業実践を行い、そのことに協議を行っている様子です。講師は、学園の中での中堅教員の方が務めることになっております。今年度も今ほどの実践をもとに、それぞれの学校で学力向上に向けて行っておりますので、よろしくお願いします。

高崎中学校(古國教務主任)：小中交流と地域との連携の説明

私の方からは、高崎学園の小中一貫の交流の部分をまず、説明させていただきます。まず、最初に荃崎第一小学校で高崎中学校の吹奏楽部と箏曲部の二つの部活動が演奏会を昨年度行いました。6月15日でしたので、つくば市の総合体育大会が行われていた時です。そのタイミングで、演奏を行いました。こちらが、その写真となっております(大型モニターで写真を提示)。また、小中連携のあいさつ運動です。こちらは、12月に行いました(大型モニターで写真を提示)。荃崎第一小学校に本校の生徒が参加してあいさつ運動を行いました。また、今年の2月、今度入ってくる新7年生が高崎中に来まして、中学校での体験授業というものを行いました(大型モニターで写真を提示)。「中学校の授業ってどうなのかな？」とドキドキしながら6年生の児童が来て、授業の中で笑ったりとか一生懸命授業に取り組んだりとか、とても良い時間を過ごすことができました。こちらはその時の様子です(大型モニターで写真を提示)。こちらは理科の実験になります。コロナが流行した時に、どうしても交流というのがちょっと減ってきてしまっているところがありました。令和5年度少しずつ増やしていったところがありますので、令和6年度学園研修を通してどういうことができるのかを話し合ってさらにバージョンアップできるようにしていければと思います。やはり、小中交流の良さは、小学生が中学生になることに見通しをもてるということ、それから中学生になることへの、「中学生ってあんなにかっこいいんだ」という姿を見ることで、憧れ、それから楽しみというものがもてるようになります。また、中学生にいろいろと手伝ってもらうことで感謝の心、こちらの方も育つことができるのではないかと思います。そして、中学生にとってこの小中一貫の交流のよさというのは、やはり小さい子と接することによる思いやりの心が育ちます。中学生になると悩みが多くて不安定になるところもあるのですが、そういう中学生がすごい笑顔で小学生に接しているのを見るとやはり、小中一貫のよさを感じることができます。

そして、いろいろ助けてあげるということで、人のためになっているというところから、自己有用感の向上にもつながっております。そういう中で、中学生も豊かな人間性の向上の一助になると思います。

最後に地域との連携というところなのですが、この高崎地区というのは、本当に地域とのつながりが強いというのを感じております。今日ですね、「青少年を育てるつくば市民の会」の方がいらっしゃいまして、朝のあいさつ運動を行っていただきました。また、昨年度ですと、「防災会議」というものがありまして、消防署の方、それからPTA、それから区長さんにも集まっていたき、防災についての話し合い等をしてきました。様々なところで、地域の方々に支えられております。今年度も、さらに地域の力で支えていただければと思います。

よろしくお願いいたします。以上になります。

岡田座長：ありがとうございました。何か御意見や御質問はありますか。

（市原委員）

高崎中 PTA 副会長の市原です。グランドデザインの御説明をいただきました。キーワードとしては、新時代をたくましく生きるとか、未来を切り拓くという形でこれからの新時代のテーマが載っていました。情報化社会から仮想空間と現実社会の一体社会という形で Society 5.0 というような社会のことを指しているのかなと思うのですが、そういったところで人工知能を使った学習ですとか情報の取捨選択の取組みなど、視野に入れておられるのかというところが気になったところでした。

（井橋校長）

はい。ありがとうございます。つくば市の方から一人一台端末を支給していただき、全部の児童生徒がこの端末を使った学習を進めています。特に情報の取捨選択については、情報モラル教育や情報が本当に正しいかどうかという、そういうところも含めて授業の中で取り組んでいる内容ではあります。ただ、まだ、AI 授業については先進的な取組みとしてつくば市内でみどりの学園等がやっている事例はあるのですが、本校ではまだ、そこまで取り入れた授業は実施しておりません。できれば、AI を取り入れた授業づくりを進める上で、地域の方にレクチャーしていただけるような方がいたら、すごくありがたいなという風に思っているところです。先進事例については、昨年度、みどりの学園の研究発表会に参加しまして、小学校 1 年生から AI を使っていることを知り、驚いたぐらいです。ですから、本校でまだ取り入れられていない部分があるので、ぜひ取り入れられるところから取り入れたいと考えていますが、まだ先生方のスキルや活用の方法も定まっていないところなので、ぜひ御教示いただければと思います。よろしくお願いします。

岡田座長：ありがとうございます。小澤校長先生、いかがですか。

（小澤校長）

はい。小学校ですと、それこそ情報教育の基礎の基礎で「うかつに手を出してしまえば危ないよ」という危険性というものを小さいうちから教えていきながら、その中でさらに経験を積ませることです。危険だよと言って止めてしまうのではなくて、幼い子が熱いヤカンに触って、その熱さを知り自分で学ぶ、それに近いような形のものでできれば良いなと思っているところです。触らせる危険性というのが、小学校ですと、本当に大やけどしてしまう可能性もありますので、それこそ専門家の方と時間をかけた上での指導という風にもっていくと良いと感じています。ですから、現時点としてはちょっと、井橋校長が話したとおり、本学園としては、本格的なスタートは切れていないというところ

です。

(市原委員)

どうもありがとうございました。イーロン・マスクという人が、AI ができて、「グッバイ、ホームワーク」とつぶやいたりしていて、そういった方向性もありますけど、ある意味もうタブー視はせずに、積極活用の方にすべきだと思いますし、SNS などの利用方法に関しましても、炎上事例だったりとかトラブルに巻き込まれた事例など、私も普段家庭で子どもと話すときはそういう話をしたりするのですけれども、学校も家庭も地域も一体となってというコミュニティ・スクールのテーマですから、そういった形で、「新時代」といテーマに踏み込んでいくのも大切であるなど感じました。ありがとうございました。

岡田座長：ありがとうございました。学校が大きく変わっている。その大きく変わるひとつの側面ですので、これから話題にしていくところです。関連して何か御質問はありますか。別の視点で何か御質問ありましたらお願いします。せっかくの機会ですので、いかがでしょう。よろしいですか。

(長谷川委員)

新時代の素敵なお話の後に、素朴な話ですけど、先ほど見てた6年生が2月に中学校に来て授業を受けるという、私たちにはなじみのあるものなのですが、他の学園ではどのようなになっているのでしょうか。同じようなことをされているのでしょうか。それをちょっと疑問に思いました。

(久保田次長)

学校の形態によって多少違います。もちろん、義務教育学校という形で9年間同じ校舎で過ごす学校については、年に1回ということではなく、複数回双方の教室に行ったり、特に高学年の生徒が低学年の授業のお手伝いをしたりするという光景は、たくさんございます。実際のつくば市の小中一貫教育、全学園でやっていますけれども、高崎中学、荃崎第一小学校のように一小一中でやっているところは、高崎学園と吾妻学園だけなのですね。その他というところというのは、一中三小であったり四小であったりという形になります。コロナ前は実は交流というのは結構ありました。どちらかの学校に出かけたり、中学校に集まったりということがあったのですが、コロナの2年間3年間でやはり大きく変換しまして、実際に今現在そこまでできているところというのは、そう多くはないのではないかなという風に思っています。高崎学園の場合は、通学のエリアも一緒ですので、しかも学校が物理的に近いという条件もございます。比較的やりやすい地域であると思っていますし、先生方から発表があった去年の研究発表もですね、高崎中の生徒が荃崎第一小の教室を使って授業をやっていたような、事例もございますので、その辺は、他の地域に比べると比較的地理的な優位性も高いので実施できているところはあるのかなと思っています。

(長谷川委員) ありがとうございます。

岡田座長：ありがとうございました。一小一中という、好条件ですので、進め方によっては、教育効果が上がっていくだろうと思います。他に御質問はありますでしょうか。

先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。これを踏まえて、この推進会議においても、委員の皆様にグランドデザインへの賛同をお願いしたいと思います。令和6年度学園・各校のグランドデザインに御賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

岡田座長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営を進めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 熟議「地域とともに高崎学園が育てたい児童生徒の姿について」

岡田座長：では、次に移ります。熟議について、ファシリテーターを高崎中学校の木村文彦教頭先生をお願いしてよろしいでしょうか。

木村教頭：(承認)

高崎中学校教頭の木村と申します。よろしくお願いいたします。では、この後は熟議ということなのですが、共有することが大事ですということがあったかと思いますので、話合いの状況を見て、時間の方を声かけさせていただきたいと思います。後半に各グループで熟議を交わしていただいたことに関して、発表していただくという形をとっていききたいと思います。まず、テーマの確認です「地域とともに高崎学園が育てたい児童生徒の姿について」というテーマで熟議を進めていききたいと思います。グループは、今座席を小学校、中学校に分けてありますので、この二グループで熟議の方を進めていくという形をとっていききたいと思います。ワークシートを用意しました。そちらを、見ていただいて項目に沿って話を進めていただきたいと思います。

・各グループでの熟議 27 分間

小学校グループ

- ・とにかく素直な子が多い。おおらかで元気な子たちが多い。
- ・学力向上の部分に課題、素直な子どもであるが故に何でも信じちゃうところが心配。
- ・社会の変化に伴って地域とのつながりという部分が薄くなりつつある。

- ・開かれた学校、積極的な地域との関わり、行事での交流や学校に来ていただけるような場を設けることが大切。
- ・荃崎音頭のような盆踊りで地域との関わりをつくっていただけるのでは。

中学校グループ

- ・あいさつがすばらしい。9年間素直に成長している。
- ・自分の気持ちを上手に伝える力も、関わり合いをとおして育てたい。
- ・高崎地区は地域の方々が支えてくれている場所。
- ・地域の方々は学校に協力したがっているので、学校側が地域に協力してほしいことを上手に発信する必要がある。
- ・地域の企業の方々に出前授業などをお願いしていきたい。

(木村教頭)

はい。ありがとうございました。それでは2グループ小中発表してもらいました。今日これで完結というわけではなく、短い時間ですので、そこで「じゃあ、こうしていこう」というところまでは、見出すことはできませんけれども、いろいろと情報の共有ができたかなと思います。これから実現に向けて、少しずつ交流・共有を生かしながらということを進めていけるような形をとれると良いと思います。

(4) その他

岡田座長：それでは熟議が終わりましたので、まとめになりますが、皆さまから何かありましたら、御意見があればお願いいたします。

では、次の開催について、木村教頭先生からお願いします。

(木村教頭)

はい。それではお疲れ様です。本年度、年3回の推進会議を予定しております。次回ですけれども、令和6年10月1日火曜日、13時30分から今度は荃崎第一小学校で開催を予定しております。第3回に関しては、令和7年に入って2月4日火曜日、時間は13時30分から、中学校でということで開催を予定しております。詳細については、追ってご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。以上です。

岡田座長：ありがとうございました。以上終わりにしたいと思います。御協力、ありがとうございました。スムーズに終わることができました。進行の方、事務局にお返ししたいと思います。

事務局：岡田座長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

7 閉会

以上をもちまして、令和6年度 第1回 高崎学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度第1回高崎学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年6月3日（月）

14：30～

場所：高崎中学校 図書室

次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 教育長挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

5 座長・副座長の選出

6 協 議

(1) 学校運営の基本方針について

・各校のグランドデザインについて

(2) 学校の教育活動の紹介について

(3) 熟議

テーマ「地域とともに高崎学園が育てたい児童生徒の姿について」

(4) その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

令和 6 年度 高崎学園コミュニティ・スクール推進会議
(第 1 回：6 月 3 日 月曜日) 受付名簿

番号	委嘱の区分	氏 名	よみがな	所属・役職
1	(1)地域住民	渡辺 峰子	わたなべ みねこ	主任児童委員
2	(1)地域住民	石川 隆	いしかわ たかし	元学校評議員
3	(2)児童・生徒の保護者	田中 雄輝	たなか ゆうき	PTA会長
4	(2)児童・生徒の保護者	市原 裕一郎	いちばら ゆういちろう	PTA副会長
5	(2)児童・生徒の保護者	勝又 みゆき	かつまた みゆき	PTA会長
6	(2)児童・生徒の保護者	猪瀬 奈保美	いのせ なおみ	PTA書記
7	(3)地域学校協働活動推進員	長谷川 清恵	はせがわ きよえ	元学校評議員
8	(4)学識経験者	岡田 克司	おかだ かつじ	元学校長
9	(4)学識経験者	岡田 良一	おかだ りょういち	元学校長
10	(5)学校長	井橋 憲一	いはし けんいち	高崎中校長
11	(5)学校長	小澤 光幸	こざわ みつゆき	荑崎一小校長
12	(6)教職員	木村 文彦	きむら ふみひこ	高崎中教頭
13	(6)教職員	古國 芳彦	ふるくに よしひこ	高崎中教務主任
14	(6)教職員	三橋 伸孝	みつはし のぶたか	荑崎一小教頭
15	(6)教職員	千葉 直樹	ちば なおき	荑崎一小教務主任
16				
17				
18				
19				
20				

本県の教育目標

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

小中一貫教育 つくば市立高崎中学校

グランドデザイン2024

学園目標 「ともに学び、心豊かに新時代をたくましく生きる社会力をもった子どもの育成」

学校教育目標「自学・自律の心を育て、社会に貢献できる生徒の育成」

つくば市 学校教育指導方針

- 学びたくなる楽しい学園・学校
- 自己実現できる学校
- みんなで支え合い、
- みんなが生き生きとした学校

自学の心を育てる

DO

学びの場は1人ひとりでも、進みどでも、みんなが学ぶ安心感

9年間を見通した「学力保証」「成長保証」

確かな学力の育成

- 基礎的・基本的事項の確実な定着
- 学習への主体的な取組み
- 協働的な学びの育成
- 学びの活用力の育成

【全国学力学習状況調査及び学力診断のためのテスト 自分の考えを表現する力を問う設問の正答率 県平均以上】
【授業中 自分の考えを自分なりの方法で表現することができる生徒の割合 75%以上】

「ICT」の日常的な活用・活用本を文庫の一冊として

丁寧な振り返りの工夫

心の教育の充実

- いじめのない仲間づくり
- 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- 自己有用感の醸成
- 20年後に生きる能力の育成（キャリア教育の視点）

【「心の教室」「Sルーム」を利用した居場所づくりの充実】
【「報告・連絡・相談・確認・記録」の徹底】

自分たちで考え工夫した係活動

児童段階に応じたつくば市教科書の充実

社会貢献の心を育てる

自己実現に向けたキャリア教育の推進

中長期目標

- 個別最適な学びと協働的な学びへの実現を目指した学習指導の展開を通して、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図り、それらを活用して自ら考え、判断し表現することで課題解決力を育む。
- 学年・学級経営を基盤として、基本的な生活習慣を身に付けさせ、明るく礼儀正しい高崎中生を育てる。

組織目標

- 学校は生徒が主役 教師は授業で勝負
- 授業を通して、関わり合い、学び合う学習集団を育てる。
・「関わる力」の質の向上を図り、「教え」から「学び」への転換を図る。
・業務の効率化を図り、生徒に関わる時間を増やす。
- 互いの良さを認め合い、高め合う集団をつくる。
・安全で、安心して生活できる居場所づくり
・一人一人が主役となって活躍できる場づくり

めざす教師像

- 人間性豊かな教師
- 信頼される教師
- 行動し実践する教師

働き方改革の推進（業務の効率化を図り、整頓関わる時間を増やす）

- スクリ、teams、LEBER、C4th等を活用した情報共有・情報処理
- 地域と学校の連携・協力による文化・スポーツ活動の推進（KTC）

自律の心を育てる

CHECK

時を守り、場を清め、礼を正す～具体的な場面での生徒指導～

安全・安心・信頼される学校

健康・安全・防災教育の充実

- 危険予測・危険回避能力の育成
- 安全で安心できる学校環境の整備
- 望ましい食習慣の形成と食の自己管理能力の育成
- 自ら進んで運動に取り組む資質の育成

【各種災害を想定した避難訓練を実施】

【体力テストA+B 50%】

【熱中症対策の一つとして、昇降口前にスプリンクラーの設置】

避難訓練のあとの振り返りと共有

SOSの出し方に関する教育、学校生活相談員・SC・SSWとの連携

信頼される学校づくり

- 学校情報の公開（HP、学年・学級通信）
- 学校評価の充実・改善
- 教員評価の充実推進
- 学校におけるコンプライアンスの確立
- ゲストティーチャー・地域人材の活用
- 保幼小中との連携

【HPの週3回以上の更新】

【運動部活動の工夫・改善、地域人材を活用したKTCの運営】

【保幼小中の交流活動の充実 合同引き渡し訓練等の実施】

学習結果を生徒・学校生活向上改善

PLAN

ACTION

家庭
(幼・保)

1～4年生
基本的生活習慣の習得
基礎・基本の定着

5～7年生
社会性の育成
家庭学習の習慣化

8・9年生
自主的・実践的態度の育成
次世代型スキルの育成

社会へ
(高校)



令和6年度 高崎学園 つくば市立荃崎第一小学校 グランドデザイン

【茨城県教育目標】

- ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
- 郷土を愛し
協力しあう心を育てる

【校 訓】

至誠（やさしく） 勤労（はたらく） 協和（みんなで）

【学校教育目標】

自ら学び考え 未来を切り拓く子どもの育成

【つくば市教育目標】

- みんなが幸せを実感できる学園
学校・幼稚園
- 自己実現できる学校
みんなを支え合い、
みんなが生きてきた学校

【高崎学園教育目標】

- ともに学び 心豊かに
新時代をたくましく生きる
社会力をもった子どもの育成

【組織目標】

- 自ら考え、伝え合う子を育み 高め合う授業づくり
- 自他のよさを認め合い 笑顔あふれる学級・学年づくり

＜くめざす学校像＞

- ・子どもが生き生きとした学校
- ・職員のチームワークがある学校
- ・保護者や地域に信頼される学校

子どもが中心

＜くめざす児童像＞

- ・自ら学ぶ子
- ・明るく思いやりのある子
- ・元気でたくましい子

一人一人が幸せ

＜くめざす教師像＞

- ・人間性豊かな教師（情熱、思い）
- ・信頼される教師（誠実、謙虚）
- ・行動し実践する教師（機動力）

チームで対応

笑顔あふれる
荃崎第一小学校

「笑顔」

「達成感」

「場の設定」



自ら学ぶ子

「教え」から「学び」へ

○新たな問いへとつながる学びの工夫

- ・単元全体を通しての授業構想
- ・1単位時間のねらいの明確化
(ゴールの姿をイメージ)
- ・ユニバーサルデザイン化の推進
- ・個別双方向の学びの推進
(試行錯誤、アウトプット、振り返りの充実)

○ワクワク感を与える指導の工夫

- ・児童にワクワク感を与える課題提示
- ・考え続ける場面の設定
- ・伝え合い、深める活動の充実
- ・児童が楽しいと感じる授業の実践

○家庭学習を習慣化させる指導の充実

- ・計画と実践の見通しをもった取組の工夫
(計画表作成、学年×10分以上)
- ・自主学習の具体的例示による指導

○自律型学習の推進

- ・一人一台端末の効果的な活用
- ・個の学び方の工夫促進(自由進度学習等)

- ・授業が分かると感じる児童 85%
- ・対話的な学びで考えを深めている児童 80%
- ・家庭学習を工夫できる児童 80%

明るく思いやりのある子

「非認知能力の再確認」へ

○自己肯定感・自己有用感の育成

- ・向上心、好奇心をもたせる指導の充実
- ・仕組んで認めて伸ばす指導の推進
- ・合意形成を大切に活動の推進
- ・挑戦が称賛される学級・学年づくり

○よりよいコミュニケーション能力の育成

- ・学年に応じたあいさつの意識化と推進
- ・教職員による声かけ、心かけの推進
- ・協働のよさを味わえる授業づくり
- ・異学年及び学園内交流活動の充実
- ・居心地のよい学級づくり

○心に響く道徳教育の推進

- ・道徳科重点内容項目：

思いやりと感謝、礼儀

- ・「考え、議論する道徳」の実践
- ・自己と向き合う時間と場の設定
- ・人権教育充実によるいじめ未然防止
- ・読書活動の量的、質的充実

- ・自分にはよいところがあると感じて
いる児童 85%
- ・気持ちのよい挨拶ができる児童 80%
- ・粘り強く取り組める児童 80%

元気でたくましい子

「管理」から「自己決定」へ

○進んで運動に取り組もうとする態度の育成

- ・外遊びの奨励と職員による共遊
- ・体力テストの結果を生かした体づくり
- ・運動量を確保した体育授業の実践

○危険予測・回避能力の育成

- ・様々な災害や場面を想定した実効性のある避難訓練等の実施
- ・交通安全教室の実施
- ・情報モラル教育や薬物乱用防止教室
- ・SOSの出し方教室の実施

○望ましい食習慣の形成と食の自己管理能力の育成

- ・栄養教諭による食に関する指導の充実
- ・朝食摂取100%に向けての取組推進
- ・保護者との連携強化による習慣の形成

○基本的生活習慣の確立と健康意識の向上

- ・ルールメイキング、黙読清掃
- ・養護教諭による保健指導の充実

- ・外遊びを進んでいる児童 80%
- ・体力テストA+Bの割合 前年比+5%
- ・校内事故の前年比 減少

保護者・地域とともに歩む学校

○教育活動の積極的な情報発信

- ・ホームページの更新
- ・各種たよりの発行
- ・スクリレの積極的活用

○保護者・地域との連携・協働

- ・読み聞かせ、はやぶさ教室
- ・交通安全、防犯パトロール
- ・地域人材や教材の活用
- ・コミュニティスクール推進

○学校評価の充実、改善と

- ・校内コンプライアンスの確立
- ・2回の学校評価の実施
- ・ボトムアップ型研修の充実
- ・外部人材の導入

○働き方改革の推進

- ・職員の連携によるパフォーマンス向上
- ・保護者・地域への理解推進